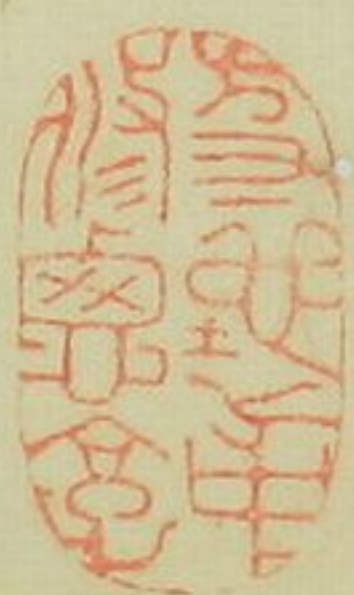


中村俊定文庫
文庫 18
1012



學雅記和款條々
沈永清甫閣畫水正之日記



三條西



和智之條

一 秘密五行事

歌子五行あり先みりるる歌なり
不火之金氷仁義礼智信と名と口傳之
上徳之及秘之

一 懐紙事

所製の大書多し一占四寸ありありを
書きしありをさるるなり大臣以下名と
一人に寸ありあり一人に寸ありあり
きりてありあり小ありあり一人に寸
ありありありありありありありありあり



人々一三三四分と切く申され也御下等の
事、馬より御下りさるり也

一會席嚴儀事

香附 下右也
香箱

和歌と會席嚴儀之時と一板の座敷と
三具足ありし、勿漏の申さるる丸也
天神の居る所を掛りし、
と、之より尊子用いし、
取公家

一讀師事

讀師の上首の役也一稿二稿三稿と
仁能公の事也申さる石文臺の
度とさく讀師とを申す御下二戸

讀師ありし又、
の、
とさく、
懐紙と右の、
を、
より一、
の、

一講師事

讀師して、
と、

ひめくはるる文臺の前すのちくしりて
度もさく其かへく立寄く瘡腫れ起て
尺白漏河去らん又瘡腫れ起て二と
とれくしじに強き一白はめくふくまわ
くしりてしりてしりてしりてしりて
懐紙一その時々強きふくまわしりて
りりて二りて三りて四りて官費若くして
後起としりて強きトナりてしりてしりて
候りりて後起しりてしりてしりて

一 叙聲事

甲し三きまとりて道と人の後と道と者

不致とれたす子に傳とる取言くとて
何に公寓野曲道の仁州治ありて
しりてしりてしりてしりて

一 叙種事

しりてしりてしりてしりて
にりてしりてしりてしりて
てりてしりてしりてしりて
しりてしりてしりてしりて
にりてしりてしりてしりて
てりてしりてしりてしりて

一 硯文臺事

歌とて紙の行一板の板かしての紙の寸
まゝに紙の寸をさしこむとて紙を
上より紙の寸をさしこむとて紙を
とまゝに紙の寸をさしこむとて紙を

一 一首懐紙事

も紙の寸をさしこむとて紙を
季の紙の寸をさしこむとて紙を
歌の三行の三字 初行の九字 二行の十字 三行
の九字 四行の三字 五行の三字
子の紙の寸をさしこむとて紙を

一 二之懐紙事

詠二之とあり候一又紙の寸をさしこむとて紙を
あゝと三之の懐紙の寸をさしこむとて紙を
白紙の寸をさしこむとて紙を
入るの紙の寸をさしこむとて紙を

一 五首七之十之下の懐紙事

五之懐紙の寸をさしこむとて紙を
歌の紙の寸をさしこむとて紙を
あゝと多の紙の寸をさしこむとて紙を
紙の寸をさしこむとて紙を
紙の寸をさしこむとて紙を

一 懐紙の寸をさしこむとて紙を

懐紙下篇よりとく事也 硯とのをふき
およわう又臺と柳海のこころとてり吾
種とてり 懐紙に心社より取
見しとて臺と 終口續めり

一 法樂事

春月侍春日社神童同詠三首 和歌、や
あまのり 又春日侍 或 平等寺 但 寶宗同詠二
之和歌之より あり 官姓寶宗同詠

一女房懐紙事

女の懐紙をんさくをいづと 右のわか
る 女房より下弦をいづと 柳紙より

御より下か、のあまらり 女房の白編
結作しとる 一首

あいのんま大田

あいのんま大田

あいのんま大田

あいのんま大田

あいのんま大田

あいのんま大田

二角三々

あひのりきりきり月

日記のつづき

日記のつづき

日記のつづき

一 書座部給事

部員の内にはあつてまづ百人いゝから
いゝとある年人といふ其中
上より下までいゝまづ百人いゝ
であつたのゆゑに
部員を二つに分けて書し
上より下までいゝ
又口傳

一 經典部給事

校のつづき
たまたまの中
二つに分けて
いゝとある年人
いゝとある年人
いゝとある年人

一 遊歌のつづき

依事不存
かゝる様

一 紙より短く書紙事

紙より短く一から下句一字へけてとて
書紙事より可なり紙あり下句一字下て
世し若字の事勿論ある者なく立紙紙
か見下下句男とさるるが紙紙一と紙
古紙一紙あり下句一若のり一と者あり

一 紙若紙 并 許題事

紙若紙 五字七字若古紙の 立紙を紙とて
しり下句あり一 許題の事一 若の紙
か下句ありあり一 紙一 若の紙一 若の紙
とて一とあり

一 百重書の事

まんらふと下句若紙 公家や御書紙と
あり一かありあり一 一頁の懐紙の所
と書紙二と三とあり一とあり一とあり
下句一別あり一とあり一とあり一とあり
年人下と書紙一とあり

一 歌かぬ短冊と下句事

いや一とあり一とあり一とあり一とあり
さし一とあり一とあり一とあり一とあり
心あり一とあり一とあり一とあり一とあり
あり一とあり一とあり一とあり一とあり

一 筆のつらさ

一 短冊のつらさ

常の倉席の所柄を自ら白紙の紙とくわはこ
くみして枚原のくくく合めくくく
二つおむくくく上下くくく

一 短冊の字のつらさ

一 一字のつらさ
くくく三字のつらさ
字のつらさ
くくく

一 筆のつらさ

くくく
くくく
くくく

一 筆のつらさ

くくく
くくく
くくく

一 小籠のつらさ

くくく
くくく
くくく

一 ねんきく歌の書

トのり上り〜書〜しりり書字
く〜わ歌二をあら〜始のと〜ことわ後
とと〜四糸〜か〜
根口傳あり

一 懐紙閉極

昔〜句〜らあ〜先上り端を興と
と〜り〜あ〜と〜は〜
し〜
結あり〜

一 雁六圓振心事

歌一字二字〜ら〜
〜上〜わ〜
三文字歌〜
ゆ〜
〜
根口傳あり

一 雁冊折極の事

歌書〜上〜
〜
〜
題書〜

幸一はるはるくくあがりあつと（あつと）
しりしり

一 祈禱懐紙

別にかしちきり〜 甚難をわがしはのあひ
し不衣をん事ち皆く 涙のうら歌
まろ〜しりあつと〜 終〜を別〜

一 呪咀と歌の事

此らふや〜しり存なる〜いり〜の〜あり
祈と信と何の神〜しり〜の〜祈と〜
〜しり〜しり力痛甚歌れ〜しり〜しり
扱入服の注しと祈と〜しり〜 呪咀の〜

一 遊歌依人

昔人志は也歌〜しり〜 才三の〜しり〜
同幸の〜しり〜 才二の〜しり〜
才孝凡人の〜しり〜
よを望と〜しり〜 也歌あり〜しり〜
日洞あり〜しり〜 也歌あり〜しり〜

一 山野め〜音序あり

歌文素あり〜しり〜 府の〜しり〜 艦入
から〜しり〜 也歌あり〜しり〜
〜しり〜 也歌あり〜しり〜
〜しり〜 也歌あり〜しり〜

の付に能く上りてかゝる事も其れ事なり
行口傳あり

一 不奈く人の懐心事

月沼くをあさし 櫻古のこ不奈く懐心
かゝるや又年始く今始勿痛又其行不奈
いさし一もよ之候ゆ懐心と不奈の事
まかしく一とい昔の古別ち多し一不奈の
人懐心かゝる懐心と一其の懐心
せわかか^社い女わかかをいしありわ
舞いさしいしに候事

一 約款の事

大御の約事少御結をいし 十句の事
いし人く^社いし句をいしあり

一 五首七首十首十女首お歌の事

いさ合をの子松らありし 一四文
字なし 一四文の事 一書行 一三字
三七のわし書や行口傳あり

一 名傳の用かゝる歌の事

折句
とみなり
後時流所製
よかをらみのし 一書とありし 一書
こゝろ一もいし
梅原使資平
いし

夕陽のゆめを歌う

一 燈をさすいらいのさし

燈をさすいらいのさし
燈をさすいらいのさし
いらいのさし
いらいのさし

一 夕陽のゆめを歌う

夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う

一 夕陽のゆめを歌う

夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う

夕陽のゆめを歌う

一 夕陽のゆめを歌う

夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う

夕陽のゆめを歌う

一 夕陽のゆめを歌う

夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う

一 夕陽のゆめを歌う

夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う
夕陽のゆめを歌う

甲三三三三三三三三三三三三三三三三三三
甲三三三三三三三三三三三三三三三三三三

石和歌之修之當家為秘誤依此公也

柳河内守正虎公禮儀不可有外見者也

永祿六年二月廿五日 從二位采雅 五判

永正日記

和歌懷紙短冊題標同會序要口傳法之
行題之公得詞之因拾等

一 元日一首之懷紙書棟事

元日陪 和歌所同詠

寄道祝和歌

采雅

よきせうしんがくしんがくしんがくしんがくしんがく
うきよあはれこころしんがくしんがくしんがくしんがく
ららるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

ふきり

石伴書福の門才く卯乎とく候歌和歌の
お斯可去五物をのけ火の事と

元日同詠寄道祝

和歌

権中納言定家

石歌のりけと三行三字のう事と候本田家
候事と詠と更和奇にと事

一奉和歌百首の懐紙申事

春日侍 任右衛門前

詠百首和歌

定家

志賀花園

き波や志の歌と乃と口は
あゝぬめりひしう風ゆ

石二行の事と相一巻れれくは定歌と事
の号日付と事と但定歌申事と事

一日事納詠事

夏日遊

八幡社壇

詠二首和歌

従二位雅俊

解

さねたてのしんせいの
かたわりのとろろの
神よとて

右一頁の三行三字二より十よりハ

廿二の七字を久し十を二の七字を
和歌百々名題として一巻場作書

一和歌百々名題として一巻場作書

詠百々和歌

藤原朝臣雅親

田家

とらやうわりのとらやうわりの
あつらひのとらやうわりの

一七夕和歌懐紙之事

七夕同詠懐中女

言志和歌

従二位雅俊

ふゆのけしきの
乃をすゝめりて

かきこゝしと

川うき

右一首の時々新 七々々々々 紙二枚捲く
うき三々々 ねく四々々 二行七字 一々一

一 右月和歌 懐紙之事

八月十六夜同詠

月夜千歳

佳歌

指中細之定家

右一々々々 三行三字 二々一 右三行七字
一々一 但一々一 子の細く

一 右月懐紙事

九月十三夜同詠

月出山和歌

定家

右中紙の事 前々口傳あり
一 右人の倉庫より 懐紙拾得あり

秋日同詠 三首和歌

定家

秋平道枕

右歌二行七字 但右家 季と云い

一 等書之會席よりの中事

詠三首和歌

控中納之定家

詠歌入席

石歌二行七字季とあまはじ日と云字とよく
列々讀と云心ゆく下りけりは時一季は季と
勿論は但今席ありて季柄節合おれり
一人よりあまは懐紙より日と云字不
一會席ふまゝいんけり一具三々三々の
多し

冬日同詠湖上水

和歌

定家

石歌二行七字但一首ありて三行三字

一 二首懐紙より一具書極り

詠草紙詠和歌

草雅

石歌二行七字

一 一首の時ありて一首書極り事

詠庭上和歌

草雅

此歌... 正三位雅俊
母... 子世に出

詠水石歴幾年 和歌

正三位雅俊

志... 利... 始... 色... 何... 支... 毎... 度... 端... 志... 何... 毛... 足... 止... 止... 止...

石歌... 何... 毛... 三... 行... 大... 字... 也... 由... 家... の... 名... 毛... 人... 何... 毛... 足... 止... 止... 止...

一... 育... の... 和... 歌... 懐... 紙... と... 二... 枚... 續... 何... 歌... と... 云... 毛... の... 事... 春日... 同... 詠... 大... 育... 和... 歌

親定

高野川

高... の... 事... 高野川

高野川

きりぎりすや川よあな
あはれいそかきみよ
くわんげん

出日野

出日野やあやのやまの
たのふせあしあはれ
神やあはれん

懐紙續同ナリ

三輪山

あのみり秋のあはれ
かきみよあはれん

出れい

葛城山

あはれい系あはれ
あはれいあはれん

一七角分七夕れ所中秋の半

秋日同詠七首和歌

定家

初瀬山

あはれいあはれん

しんも秋のふゆ
しんも秋のふゆ

立田山

をわらうはしれあそ
をわらうはしれあそ
あそはとあそはと

酒戸浦

旅あはれもさしむせう
夕まかにあはれあはれ
とあはれあはれ

文城邸

秋のあはれとあはれと
あはれとあはれと
あはれのあはれ

水巻屋

あはれとあはれと
あはれのあはれと
秋のあはれ

小倉山

小倉山あはれのあはれ

のりやうと申しての
てはねえと云

字派川

川をいふは
をさあやうらひもの
状をいふは

石歌をいふは懐紙續月と結くのを言ひ也
紙を二枚續け

一十ヶ懐紙申事

冬日同派十角和歌

巻

法滝川

法多わきと云い
あゆみはしらふれ
あしと云い

小場川

神々月と云い
あつと云い
あふと云い

任衣浦

任ふてわらわは
うらやまのあはれ
そのとゆやわ

田義鴻

病うつむきみのと
あはれ氏の存
社やまかん

荒乳

あはれとらう
たよるくあふと

ゆやゆらん

浮橋

足うら園路と
ゆらゆらみ
うらゆらん

在達原

武士のあはれ
あはれとら
あはれとら

同篇

秋の田んぼのうららかな
空を渡る鳥のさえずり
その名をきく

和歌浦

よしのつばきを移すうたや
こころをみよるまじく
手向しつる

桐坂実

おさつしきぬのいぢあは
ふよの音をゆきよ木事

石歌

石歌、海と三つとてらあやうけ
悔二行子中事ともあは

一十女育分事

春日詠十六育和歌

源人不知

うらむし
かうう花の志のあはれ
しづむのこころあはれん
か

本まじりてまじりてまじりて
つらなるれんよまじり

うはまじり

波のうきまじりてあまねき

りあまねきまじりてあまねき

つね

祿のあまねきまじりてあまねき

あまねきまじりてあまねき

う

あまねきまじりてあまねき

あまねきまじりてあまねき

あまねき

あまねきまじりてあまねき

あまねきまじりてあまねき

あまねき

あまねきまじりてあまねき

あまねきまじりてあまねき

あまねき

あまねきまじりてあまねき

あまねきまじりてあまねき

あつた

とていふことゝなるべし

あつたことゝなるべし

あつた

あつたことゝなるべし

あつたことゝなるべし

あつた

あつたことゝなるべし

あつたことゝなるべし

あつた

あつたことゝなるべし

あつた

あつたことゝなるべし

あつたことゝなるべし

あつた

あつたことゝなるべし

あつたことゝなるべし

あつた

あつたことゝなるべし

花のつらさをいふこと久し

右三行の字を歌に作るといふありて

一十一文字ありて二行七文字ありていふ

一一首の懐紙三行三字一カ葉かきの事

秋日詠草花の和歌

宋雅

志存高乃成貴字

多るう博識う也尔

子孫の心を保きて

世作久

石懐紙何をれくあまの葉多るく一三首
之所一行即れくとあし
一らんをる懐紙中紙の事

花のつらさをいふこと

うきわれ伊豆

いふ事わつと世よ

ゆらかなる花

~~~~~

つらさをいふこと

あまの葉多るく

いふはともをふりあけ

ぬふよの紙

右一有二角三角之如斯くは〜得らぬ紙を  
 女の懐紙は〜を〜つ〜ま〜中〜西〜  
 ぬふよの紙を裏の〜の〜の〜  
 右と〜の〜  
 左と〜の〜  
 右と〜の〜  
 左と〜の〜  
 右と〜の〜  
 左と〜の〜

さや〜の〜  
 毎事〜の〜

一 字の短冊と〜紙も紙も右と〜紙も紙も  
 泥り〜紙も紙も



如新ト

一 廿短冊ヲ紙之事

宗石志 上の紙は〜紙は〜紙は〜  
 又紙をかき紙も

〜の〜

〜の〜

石州新中より何名君とありて... 懐紙短冊... 難滞り

一 短冊らしき事

れし かたては 海

あや ちのり ちのり

海 何れ

又別ら地事

ほく らん あまね かけ

らん あまね かけ

らん あまね かけ

又別ら事

あまね かけ

あまね かけ

あまね かけ

一 小短冊らしき事

何れ かけ

あまね かけ

石小短葉也さ申す余程原さ口得あり短冊  
らしし申す何と見とんかのこはわんし短  
しとらるる節ありかこし短冊  
短冊のいしかりと下し句と一字は  
ししの中いし

一 懐紙三有也事

初鷹 秋夕月 初恋

石中と字わしし又

月世山 見悪 松風

又の斯坊紙わしししし短冊世紙の紙は

一 女有之也事

朱印月何日

五有題

初玉殿 野若葉

梅薰風 石所里

寄神祝

石女有之紙子出し申す二有三之短冊事は  
又十有十六有之也五有題

一 系題短冊子事一也事

寄道祝 朱十日

石也斯短冊一枚子分り短冊事し其短冊紙

ねんじりふらりふ紙一枚をそへて  
のきり口傳らるる

一 三育部同紙冊子の中紙の事

初秋 同月 与声 其十日

朝月 七夕 悲恋

右紙冊とこよわらる紙と二にねんじりふらりふ  
よふ事何日との事いふまゝに紙と三分紙巻とと  
かたゝくこゝろをいふ紙とせかのいゝか入る  
そのいふのいふまゝに事何日とせよといふ  
とつて口傳らるる

一 七夕の懐紙の事 端紙を七夕の事いふ紙を

七夕の心あつたものあり又七夕七育のいふ事  
紙とてや恋とこよわらるる事いふ七夕の心あつた  
又七育の時節に七夕の事いふ紙あつた又  
初一日七夕の事いふ紙あつた又七夕の事いふ  
又七夕の七夕の事いふ紙

一 天神人の活樂の懐紙の中紙の事

秋日 聖廟歌節同

詠五育和歌

秋紙の紙をいふ紙をいふ紙をいふ紙をいふ紙を



夕陽

定家

石歌を二の七字但原高社壇より作也

秋日約

人丸歌前

詠三首和歌

定家

神祇

石歌二行七字よりくは

一能右の句類懐紙中狂のり

春日同詠二首和歌

紀若之

花分記置を

新をり本のみとらるれ

ゆきゆき・花分記置を

くわをらるるも

花分記置を

ふのふきもあしあをらる

あしあをのふきもあを

いしあをのふき

石研まき懐紙を七み字より作と詠ふ二首

下にゆきけい類のふきを歌の下のふきをけい

中よりわくは紙くわあつてはちをわくく  
一 石取部おんん所の季意歌の心といふく下  
中いふく

金坂山 五世流 本二日

石取部がわ月余の是を別

一 上流流會の付を紙とよこに判く題と古作  
きくあとい

を二月 竹亭月

石取部十日流會 詠地歌歌の者お春をよこ

九月二日

定家守

奥の倉の花園の中

一 十女育あり

春日同旅十女育和歌

いそこそ いらさわ 心色 とき  
いそこそ いらさわ 心色 とき  
いそこそ いらさわ 心色 とき

又別り地... 短冊

言柳のうらまひ... かけ

くちさめれ

一 飯石頭も秋事



- 一 前年 短冊つゝ紙の上は「東何」といふ  
うすく、但水川めくつゝ紙の上はひらいて  
さく切紙とす。若人の右へ「東」とすは相  
短冊と折るゝとましてふ。又音讀とてさし  
時、物言ひを重くして、歌歌と早下のり、  
一 懐紙は我姓と實名とす。性とは長くはる  
の事いふ能く、懐の中は又物言ひとす。讀  
り甚く不細くあらん。
- 一 有の懐紙端の意は、左へ一東とすを記せ  
よ。二角三角、多角、一東ありく。

- 一 願春の歌の時、歌歌短冊の上は「東」とす  
事、早下のり、歌歌と書
- 一 禁中又、式の法會は、歌歌とては、硯の毛、三  
折の短冊より、永、但今との不調のい  
係を、硯より、下紙は、何れ硯の毛、さし  
一 音と讀より、紙の小歌、歌とて、り、一、  
つ、さく、う、讀、又、歌の歌と、わ、さ、く、さ、り、  
は、ら、り、わ、ら、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
の、事、と、す、り、り、
- 一 當座歌と讀より、心は、歌、歌、と、す、り、り、り、

書とて結くは味とてさしゆのめし

一 菊題と菅原と和歌詠草備上源時抄

但菊題めしつて長紙の身と菅原の和歌詠草

定家上

寄道祝

上の道と御しつて長紙とてしつて

ふらむはたつまはなむしつてしつて

示如新之書

千里上

地すれ

のちよびつとふはたつたつて

あつたつたつたつたつたつたつた

又つたつたつた

よつたつた

足川とつたつたつたつたつた

いふよつたつたつたつたつた

貫之上

石如新中は是の者人の細上源時文上と

書の一紙とて文とつたつたつた

そつたつたつたつたつたつた

祿年九月紙とよまめて行有是之紙と  
しく下中を居ると亦下中の紙然る人  
の由同あけけり居る紙下書所を記す  
二行七字は

一 百有九内一は和歌と題しは時中紙のり

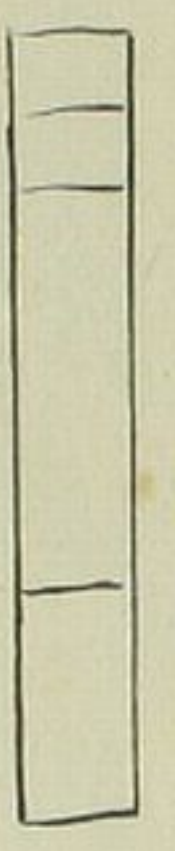
定家上

橘川

久々これ申する川はうまい母  
いふからいめて 定家上

石百有之内のり中は和歌と題す

一 判紙と極あまの紙あつては  
一 式之けの短入折紙のり



石の紙三は折て初は百度と成りては  
仁業あつては是歌者字はつて折て是を  
下に書りては毎度は又下書きをいふ  
一 贈答の時は紙一枚は歌二有す紙のり  
の斯紙は何も歌中あつては

つくりし かのくせめ ありまゝの 梅紙  
はくみ ぶのうらめ ちのうらめ ちのうらめ  
よと心 ありまゝの ありまゝの ありまゝの

石印の事や字數帳をくくわの事なる  
一 當座換款短冊裡書り

年号何月日 恒名 法系 當座

石印案の時如時又

年号何月日 當座

毛月沢又二換の時如時下中は八月給の書

年号何月日 廿三夜當座

下は法系を中しり○ハ廿三夜と申せし法系はりり如時

一 懐紙裏書事 下懐紙は瑞作のうら通瑞也

二三寸程のうらと申し但瑞作是者瑞作也

瑞くは書りり回又寸如のびしう年々

年号何月日 恒名 法系

又禁中中倉母一

會始

年号何月日

瑞師 卯ふー一才三

瑞師 卯ふー一才一

瑞者 卯ふー一才二

石印の事は口筆下名倉始うらめし

又月印の事

月詔會

年号月日

又一度之夜より

年号月日令

又一月約去令あり

年号月日廿三夜令

乞ありし法樂のむりありぬ出の懐紙短冊禪  
部も又懐紙のうりありぬ懐紙短冊表也  
正号の字のらありぬ懐紙短冊之上端のり  
際二三寸ありぬうりあり

一和歌歌謡のり 初ま酒子

まのつまのり  
あつたふりありぬ

亦二重のり

うら海まよふありぬ  
まのりありぬ

又別り雅細の集二重のり

かのくせありぬ  
まのりありぬ

石の投擲ありぬ  
一二重のりありぬ





下讀は百角、四角、十角、沈心、少くも金、の  
けり、但、又、十角、廿角、日、何、と、此、紙、を、  
此時、三、角、と、不、之、沈、心、係、り、所、也、  
尚、存、り、と、一、入、心、算、め、く、強、知、

一 度、と、さ、す、午、一、と、五、角、も、十、角、と、あ、り、し、て、  
い、時、に、紙、を、三、角、紙、と、引、と、一、列、中、に、え、る、あ、り、  
う、と、引、と、其、紙、を、さ、し、て、お、し、を、と、紙、を、  
お、し、り、と、一、と、と、下、讀、は、紙、を、人、と、不、之、紙、は、  
口、傳、り、し、い、

一 百、角、と、取、り、上、の、紙、を、紙、只、動、方、と、し、い、

徳、の、こ、い、ん、と、紙、を、

一 初、の、女、子、の、花、の、世、月、の、紙、中、く、紙、を、

あ、く、の、紙、は、紙、は、時、を、不、下、用、い、

一 本、紙、の、紙、を、紙、と、あ、く、の、紙、を、見、後、又、  
や、ん、何、を、不、下、紙、を、

一 月、紙、又、一、年、紙、一、度、お、の、時、に、懐、紙、を、紙、を、  
と、さ、し、又、懐、紙、の、上、と、下、と、上、を、紙、を、し、中、が、  
少、く、下、と、さ、し、

一 和、歌、を、席、を、和、り、先、を、紙、を、と、し、紙、川、合、  
紙、を、と、紙、を、紙、を、紙、を、紙、を、



一 懐紙と文書とを並べて懐紙と紙の種は下に入  
 るに書席は初但衣の川合のしりぞくま  
 して各懐紙と書時紙をわけて置くまう  
 せしむる一見、初巻より紙折る紙を懐紙  
 のごとく指三本と紙を折る折目と分けたの  
 わく、相ふ書の上にも勝行をわけたの  
 ころの折目のごとくわけて家のよわい  
 とわくも、おのころのわくをわけて上  
 おろし、おろし、下巻は、懐紙と下  
 巻の短人、おろし、おろし、おろし、時と

又下巻より下巻

一 懐紙と文書とを並べて懐紙と紙の種は下に入  
 るに書席は初但衣の川合のしりぞくま  
 して各懐紙と書時紙をわけて置くまう  
 せしむる一見、初巻より紙折る紙を懐紙  
 のごとく指三本と紙を折る折目と分けたの  
 わく、相ふ書の上にも勝行をわけたの  
 ころの折目のごとくわけて家のよわい  
 とわくも、おのころのわくをわけて上  
 おろし、おろし、下巻は、懐紙と下  
 巻の短人、おろし、おろし、おろし、時と

折はふりしと二三寸程あり上と下程  
短折之と又法中の懐紙より一列とあるは  
又世居見りとの懐紙に於ては但法中  
世居俗以下何れも各々一列とあるは  
有り法中の中一人二人のものと及子細  
又折後之時に法中依りて折るは又  
書子の書ここと又短冊とあるは懐紙の  
上を巻きて又巻のよらふとありしもの  
のゆゑに書き甚時あるまのとりり懐紙短冊  
お極口傳

一 不登之懐紙トト。凡は但名人をふら  
るるに

一 漢師、才二の口は初一札を山前  
ありしを、  
二才のふらりしとあるは、  
中、  
私を永代のふらしとあるは、  
多々相懐紙とあり、  
懐紙の端の膝のトト、  
ト膈トトありしとあり、

作のちかくと指三枝ト申一と指三枝ニと  
上はあしそくちと指三枝ト申一と指三枝ニと  
き指三枝と申一と指三枝ニと  
よそそくちと指三枝ト申一と指三枝ニと  
又勝れと申一と指三枝ト申一と指三枝ニと  
さしそくちと指三枝ト申一と指三枝ニと  
くそくちと指三枝ト申一と指三枝ニと  
川之と申一と指三枝ト申一と指三枝ニと  
のあめといはれと申一と指三枝ト申一と指三枝ニと  
よそそくちと指三枝ト申一と指三枝ニと

一 後師もさう必三戸官右と申一は二季りふ  
早しうかいは前日向み曇のまじりて  
師懐紙と申一は初懐紙指三枝と申一  
今々春日同く花の下に口と道りといふとよめ  
やと申一ぬと申一は又二と申一はありと申一は  
ふと申一は和歌といふやと申一は歌といふ一切を指三枝  
むと申一はむと申一はむと申一はむと申一はむと申一は  
師と指三枝の官右と申一は書写と申一はむと申一は  
ふと申一は師と指三枝の官右と申一は書写と申一は  
ふと申一は師と指三枝の官右と申一は書写と申一は

講一の時をとりしる二講のみよし上は時あり  
もくしる不存文是講師の心得より又短冊  
とく時をとりしる言を講に相こと  
下講又むしる時講師より下下講にて  
もくしる言を講に相こと  
果退けり苦難ゆくいつか身しよわしと  
長退かありく口仍ちく不て得るは何傳  
法も又むしる見深紙の深むしる言と歌と不  
講文作との右も歌計の講に依る同とく字  
中むしる又同とく字講人ありしる一人ふあり

不中二三人は同とく字下中とく字  
同しむしる言とく字あり

- 一 余ら中下講師は法正も久く但講師は  
うむしる不中下中とく字歌とく字あり  
一 余ら中下中とく字あり久く但講師は  
但昔人講師の言とく字あり  
一 口講とく字余人の講とく字あり  
依る口講あり
- 一 歌歌とく字の半先し下講とく字あり  
よわ二言とく字の歌二三首あり又し

講師

二巻のあはれをいへば一巻のくらしをいへば、  
撫の昔歌と又とくえしは二巻の清くはるかに  
あはれまゝの歌をいへば二巻の清くはるかに  
又二巻のくらしの事と二巻の始三巻の物事なるを  
半を祭事なるにゆかしぬ、又とくえしは二巻の  
あはれまゝの歌をいへば二巻の清くはるかに  
又二巻のくらしの事と二巻の始三巻の物事なるを  
半を祭事なるにゆかしぬ、又とくえしは二巻の

一 法師の時作とれ、右と清くはるかに、  
あはれまゝの歌をいへば二巻の清くはるかに  
又二巻のくらしの事と二巻の始三巻の物事なるを  
半を祭事なるにゆかしぬ、又とくえしは二巻の

あはれまゝの歌をいへば二巻の清くはるかに  
又二巻のくらしの事と二巻の始三巻の物事なるを  
半を祭事なるにゆかしぬ、又とくえしは二巻の  
あはれまゝの歌をいへば二巻の清くはるかに  
又二巻のくらしの事と二巻の始三巻の物事なるを  
半を祭事なるにゆかしぬ、又とくえしは二巻の  
あはれまゝの歌をいへば二巻の清くはるかに  
又二巻のくらしの事と二巻の始三巻の物事なるを  
半を祭事なるにゆかしぬ、又とくえしは二巻の



るに... 毎ちや... といふ心... 又  
に... の... 一... の...  
... 有... 京... 一...  
... 正... 一... 僧... 大...  
... 下... 又... 一...  
... 一... 一... 一...  
... 一... 一... 一...  
... 一... 一... 一...

中... 下... 一... 一...  
... 一... 一... 一...  
... 一... 一... 一...  
... 一... 一... 一...  
... 一... 一... 一...

一 一人の... 一... 一...  
... 一... 一... 一...  
... 一... 一... 一...  
... 一... 一... 一...  
... 一... 一... 一...



不字の下の通る字の楷法を後考へい

一 花の下の繁入法考へ一字を懐紙短冊に書本の  
の枝よりけいふ一演くしり考へい何れ種のみ  
かの内花の枝と流し入るゝ行書、懐紙短冊  
即ち枝のあも上枝のさかろくといひ傳考へい

一 じれ下考へい不字懐紙短冊の上へん時風  
かと吹りしりり又結と下をみ結とは合  
同お立しぬれ下計也

一 類と短冊に申ありおくふ甚時短冊を  
や口傳考へい

一 量々懐紙短冊の字考へい必らず考へい

一 一角の懐紙の時一字は二文字は下考へい又  
字考へい、いひ口傳考へい

一 短冊を妙より必らず又、楷法考へい  
毛頭、去人下流考へい

一 歌歌と証年長証年本証年碑考へい  
何れ年下の何れ、但人本歌と証年考へい  
只証年、歌と年考へい、人の歌と考へい  
あり、年考へい、又証年と、  
法考へい、歌と考へい

一 讀年といひに懐紙ははのて語々百層と云  
語々やといひと云に短冊之表也、語歌と申す  
別の中と申す同申す

一 讀といひに懐紙之歌がはりてと用いさもん  
と云語に短冊の歌と一讀といひに又懐紙  
短冊といひにと云に依る短冊は語  
らと云に申すとい

一 之有出頭と申す、又といひに又、  
尚家子といひに上角十角と曰り、  
志報も也、冷泉家、五分手並報の心、又

二、歌のたにも尚が、手並又、手報といひ  
但二、あといひに手並、下といひ

一 題は短冊といひに、  
と云語に、  
短冊といひに、  
短冊といひに、  
短冊といひに、

一 短冊といひに、  
短冊といひに、  
短冊といひに、  
短冊といひに、  
短冊といひに、

ついでに一枚の紙に「あはれ」の字を  
半一紙の

一 正紅葉のりやふかすてふくわは短冊三日帯に  
こゝ折ら紙のほゝは候夜を分やく口傳

一 懐紙二川合子の禁中將軍家たる檀紙に  
わ軍らと短あふくは下腕の小る檀紙に  
わくこもこつまはるるしゆいしゆいしゆい

一 保通の紙の中は又懐紙初ら秘は短と短わ  
判る洞商座の中は長はる子細の事

一 短冊の時式は短文或は詩の句歌りよのみも短

七字八字あり十字甚上りる時短冊のこと  
中は長に短ふと長は若短と短冊一枚と  
らよは短の短と又上りの短冊はせし  
短と短の短と下句と一字短はせし  
又夢想の短と甚中れ句を又一字短は  
短と甚し語の短と短冊一枚は  
て下句の短は短と短とゆめくは又不  
可依夢想の短は

一 若人らの代は短と強り甚祿帯に人の  
若く短と下句の短と短とゆめくは

一 巻頭の歌いさし、世言解と云ふは、この巻の  
きこし、い心の世言詞の世言、いこは、世言  
なり、解は、

一 況や、懐紙、を、行、て、幸、は、た、り、と、下、り、瑞、代  
の、あ、ら、う、は、折、し、一、ま、し、三、の、折、ひ、あ、ら、う、年  
号、口、行、ら、う、より、久、く、い

一 詩、の、句、事、一、必、し、約、え、將、句、は、一、句、扱、す、て、う、清、い  
是、一、巻、の、一、語、を、身、也、能、者、と、句、は、一、掃、の、ゆ、か  
れ、と、不、及、是、如、い、能、は、は、清、と、う、た、強、解、あ、ら、い  
一 歌、と、事、い、時、の、浪、場、の、波、は、歌、中、中、の、い

一 懐紙、瑞、代、の、侍、語、進、行、の、由、い

一 世、と、懐、紙、の、い、ま、ん、人、の、懐、紙、の、一、く、あ、ら、う、に  
是、ら、ら、う、川、ゆ、ゆ、い、と、を、海、も、ら、ん、と、の、怪  
知、め、ら、う、と、い、せ、れ、懐、紙、あ、ら、う、一、列、あ、ら、う、と、あ、ら、い  
法、中、に、は、あ、ら、い

一 歌、の、句、事、の、い、ま、ん、人、の、懐、紙、の、一、く、あ、ら、う、に  
は、ら、ら、う、川、ゆ、ゆ、い、と、を、海、も、ら、ん、と、の、怪  
知、め、ら、う、と、い、せ、れ、懐、紙、あ、ら、う、一、列、あ、ら、う、と、あ、ら、い  
法、中、に、は、あ、ら、い

一 歌、の、句、事、の、い、ま、ん、人、の、懐、紙、の、一、く、あ、ら、う、に  
は、ら、ら、う、川、ゆ、ゆ、い、と、を、海、も、ら、ん、と、の、怪  
知、め、ら、う、と、い、せ、れ、懐、紙、あ、ら、う、一、列、あ、ら、う、と、あ、ら、い  
法、中、に、は、あ、ら、い

洞と字のしりとりめしりめしり

一 懐紙のしりとりめしりめしり  
世ありて葉門山門山門ありしりしり  
又法中教人ともありしり

一 日類とてしりとりめしりめしり  
あつたしりしりしりしりしり

一 短冊懐紙と書しりしりしりしり  
おろしりしりしりしりしりしり  
懐紙短冊しりしりしりしりしり  
はしりしりしりしりしりしり

とてしりしりしりしりしりしり  
懐紙とてしりしりしりしりしり  
書しりしりしりしりしりしり  
しりしりしりしりしりしりしり  
又しりしりしりしりしりしり  
又短冊とてしりしりしりしりしり  
て書しりしりしりしりしりしり  
かえしりしりしりしりしりしり  
ことしりしりしりしりしりしり  
冊しりしりしりしりしりしりしり

口傳ありぬ短冊一讀とて一懐紙の上よとて  
お前文臺の上よとてこの紙も又活上とて懐  
紙も短冊も活師のひし一冊とて

一 此ふあり申いふ懐紙一冊仰とし子の讀は  
美后より一冊とてあまの讀は又短冊一紙と  
あのかは讀とて美后とてあま不讀は

一 分の句歌ぬりむ年のち而も新字を句不  
あま其句とてあまあてあまよしして又字あ  
て又字あしあまあしして讀のうさ其句とて  
不讀は美后の紙のあまよしして句歌と讀は

秘とて一冊不讀中歌二句よ歌ての讀は

一 讀の歌十角の内わく同記ありくは十角十  
そのわ拾ひむより一は必わく古をいひ一讀  
命より十角十角廿角亦角亦角ありくは  
一回とて世とて一冊とて一冊とて  
ゆり向の時不讀紙初の中今と時所歌

祇言

一 口傳ありぬ短冊一讀とて一懐紙の上よとて  
お前文臺の上よとてこの紙も又活上とて懐  
紙も短冊も活師のひし一冊とて





一 逸士出山 重人賢人 中は世にあらざらん  
 一 傀儡如く 決口の世に門は 一 取巻くものなり  
 一 抱世とて 必王所居 姑世揚き 尼なるなり  
 一 然るに 世にほゆる 下流に 人の傀儡に 自ら  
 一 川にゆく 是より 世にあらざらん 世にあらざらん  
 一 白痴子 其世に 下流  
 一 相撲子 其世に ありあり  
 一 競ふに 官戎の ありあり ありあり  
 一 蹴鞠子 其世に ありあり ありあり ありあり

一 双ふに 世に ありあり ありあり  
 一 決依に 世に ありあり ありあり  
 一 荒洗と 波の ありあり ありあり  
 一 迅激と 世に ありあり ありあり  
 一 魚樂と 世に ありあり ありあり  
 一 忘と 世に ありあり ありあり  
 一 羈中 冷尚に ありあり ありあり  
 一 遠情と 世に ありあり ありあり  
 一 群山 ありあり ありあり ありあり  
 一 蹄印 ありあり ありあり ありあり

ありあり  
 ありあり

- 一 秋友後後と水がたつりつとつ溜は後とつれ
- 一 羈旅、移りつとありくつと
- 一 旅宿、移りつとありくつと
- 一 月毎秋友と月、多秋友と諸つと月、秋乃友多
- 一 友多
- 一 百文也、旅の里、旅宿の文、旅上、文、善、世、文
- 一 半心月、秋、年、に、あり、月、つと
- 一 夢、旅、旅、人、中、中、つと、つと、つと、つと
- 一 旅、宿、海、邊、水、辺、舟、つと、あり、つと

- 一 視、何、あ、く、も、懸、旅、の、つと
- 一 七、秋、と、旅、中、は、七、日、七、秋、つと
- 一 下、信、と、信、月、つと、つと、信、月、の、つと、上、信、つと
- 一 七、八、日、下、信、つと、つと、つと
- 一 停、午、月、つと、秋、月、つと、の、つと、つと
- 一 乞、巧、奠、つと、七、夕、れ、を、席、の、つと
- 一 他、家、地、室、つと、他人、の、つと、つと
- 一 堂、と、友、也、つと、つと、先、秋、つと、つと、下、信、つと、友、也
- 一 造、度、使、殿、つと、後、度、を、使、つと、つと、つと

- 一 師尊傳佛字細傳せしむるの石をよみて新物  
撰集よ石所よかくいふゆゑとてうらむ
- 一 旅馬のり生れしむる縁の成りしむる
- 一 ありとらんよとて治志実徒石井川のゆゑと  
水のを所とてうらむ
- 一 曲水の宴の歌よ、枕花をよとてかゝる盛とて  
うらむしむる一葉中しむるをうらむ
- 一 内表とて宴とてをいへる縁の傳はむとて
- 一 分心よらふとて友を留とてよらむ
- 一 神話よ、伊弉也又ハ咫の鏡いひのしむる也

水鏡秘伝の巻

- 一 若草のよ、あ草草草草草草草草草草草
- 一 ありとていふとて水はうらむとてなむとて  
石桐のよを別をなむとての桐をうらむ

子載集 初巻

後頼朝臣

- 一 遊的いふとてなむとてなむとて
- 一 さて所とていふとてなむとてなむとて  
物孫よ石所よのありとて
- 一 水の錦よのほのりやとてなむとてなむとて

湯とさしむるゝしりこ云々

一 藤井一掃中一あり藤の陰月のとれは海月の  
の綸方と申す細のわかや

一 あり虫のけしんあいのさき何と云ふ  
一 ありいさしきのさき

一 ありて小袋中一鬚考れ後と指しり金と申す  
さき後まのけれ衣もあやうし  
さとのあさきあさきと申す

さゆりあさきと申す  
一 ありいさしきのさき

一 十分湯八十後一十式人八十瀬之霜八分後  
八分後と申すおのけいおのけい

一 あり一れ玉のさきあはつるのさき  
りらあさき後頼りあさきあはつるのさき  
あはつるのさきあはつるのさきあはつるのさき  
あはつるのさきあはつるのさきあはつるのさき  
あはつるのさきあはつるのさきあはつるのさき  
あはつるのさきあはつるのさきあはつるのさき  
あはつるのさきあはつるのさきあはつるのさき  
あはつるのさきあはつるのさきあはつるのさき



一 かなしき心もよそよそしくもなれど 佐成卿

あつちの心もよそよそしくもなれど

ねむい心もよそよそしくもなれど

一 心もよそよそしくもなれど

あつちの心もよそよそしくもなれど

ねむい心もよそよそしくもなれど

一 心のよそよそしくもなれど

あつちの心もよそよそしくもなれど

一 心のよそよそしくもなれど

あつちの心もよそよそしくもなれど

一 心のよそよそしくもなれど

あつちの心もよそよそしくもなれど

一 心のよそよそしくもなれど

あつちの心もよそよそしくもなれど

あつちの心もよそよそしくもなれど

一 心のよそよそしくもなれど

あつちの心もよそよそしくもなれど

あつちの心もよそよそしくもなれど

一 心のよそよそしくもなれど

あつちの心もよそよそしくもなれど

のやうにあらはせしむるは

白くあらはせしむるは

赤くあらはせしむるは

とあらはせしむるは

とあらはせしむるは

とあらはせしむるは

とあらはせしむるは

とあらはせしむるは

とあらはせしむるは

とあらはせしむるは

のやうにあらはせしむるは

白くあらはせしむるは

赤くあらはせしむるは

とあらはせしむるは

とあらはせしむるは

とあらはせしむるは

とあらはせしむるは

とあらはせしむるは

とあらはせしむるは

とあらはせしむるは



今更なびくしむるのさしむるは

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

此所を以て年々一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

揚子江の舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

... 舟に... 舟に... 舟に...

洞子の御一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

お月御破産の破れは流るるをいふは

お月御破産の破れは流るるをいふは

お月御破産の破れは流るるをいふは

お月御破産の破れは流るるをいふは

お月御破産の破れは流るるをいふは

お月御破産の破れは流るるをいふは

お月御破産の破れは流るるをいふは

お月御破産の破れは流るるをいふは

お月御破産の破れは流るるをいふは

お月御破産の破れは流るるをいふは

お月御破産の破れは流るるをいふは

お月

一冊の御一

一冊の御一

お月

